

ナガサキからの平和アピール

1945年8月9日、一発の原子爆弾により、長崎は一瞬にして焼け野原となり、7万人を超える尊い命が奪われた。79年を経た今もなお、被爆の後遺症に苦しんでいる方々がいる。「もう二度と被爆者をつくりたくない」「地球上から核兵器をなくしたい」との強い願いにもかかわらず、核弾頭は今なお世界に1万2120発も存在し、私たち人類は核兵器の脅威にさらされ続けている。

国際社会に目を向ければ、ウクライナへの軍事侵略を続けるロシアが核兵器による威嚇を繰り返し緊張が高まる中、今年5月にアメリカで臨界前核実験が実施された。

さらに、北朝鮮によるミサイル発射が繰り返されるなど、今この時も世界の平和が脅かされている。

これらの暴挙は、核兵器がもたらす生き地獄を繰り返してはならないという被爆者の強い思い、世界から核兵器をなくそうと積み重ねてきた人類の努力を踏みにじるものであり、断じて許されない。私たちが暮らし、働く、自由で民主的な社会の意義、それを支えることの重要性を改めて認識し、三度（みたび）核兵器が使用されないよう、戦争体験や被爆体験を語り継ぎ、平和を守る不断の努力を続けていかなければならない。

核兵器廃絶、そして世界の恒久平和の実現に向けては、世界各国の対話はもちろん、核軍縮・不拡散をめぐる議論の中核を担ってきたNPT体制の維持・強化に向けた、一層の努力が必要である。核兵器保有国を含む世界のトップリーダーには、核兵器の使用を示唆する為政者（いせいしゃ）がいる中、「核抑止論」から脱却し、核兵器廃絶に向けたイニシアチブを発揮することを強く期待する。そして、世界で唯一の戦争被爆国である日本政府には、「核兵器のない世界」を実現するため、自らの役割と責任を果たすことを強く求める。

連合は、原水禁、KAKKINとともに、毎年、核兵器保有国の駐日外国公館に対して、核兵器廃絶に向けた要請行動を展開するとともに、全国各地で原爆写真ポスター展や平和学習会を開催するなど、核兵器の恐怖と非人道性を強く訴え続けている。

私たちはこれからも、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざして、原水禁、KAKKINをはじめ平和首長会議や国際労働組合総連合（ITUC）、長崎大学や長崎外国語大学などの教育機関、関係NGOとの連携を強化していく。そして、平和を願うすべての仲間の力を結集し、粘り強く運動を展開していくことをここに宣言する。

2024年8月8日
連合 2024 平和ナガサキ集会